

がつがくいんふくいんか
10月学院福音化

だい か じだい やくわり
第1課「時代のティキコの役割をなさい」

(コロサイ人への手紙 1 章 2 章 から)

10月学院福音化は、コロサイ人への手紙から、テモテへの手紙第二までですが、1 課はコロサイ人への手紙全体
ですので、それを黙想したことを分かち合いたいと思います。今日はコロサイ人への手紙 1 章 と 2 章 のみこ
とばを中心ちゆうしんに黙想しました。

すべての聖書せいしょが同じなのですが、特にコロサイ人への手紙は、こんにちの教会きょうかい、また、その信徒しんとに与えられ
たみことばであることを心こころに留めておいてください。

まず、コロサイ 4 章 7 節から 8 節を読みしたいと思います。

07 私わたしの様子はすべて、愛する兄弟あい きょうだい、忠実な奉仕者ちゅうじつ ほうししや、主にある同労のしもべであるティキコが、あなたがた
に知らせます。

08 ティキコをあなたがたのもとに遣わすのは、ほかでもなく、あなたがたが私わたしたちの様子を知って、心こころに
励ましを受けるためです。

コロサイ教会は、パウロが直接行った教会ではありません。コロサイの地域に教会を建てたのは、エパフ
ラスというパウロの弟子です。パウロがエペソで 3 年間の働きをしたとき、その地域にある多くの地域に福音
が伝わるようになりました。その中で、コロサイ地域は、エパfras を通して福音が伝わりました。後にパウ
ロがローマの監獄に閉じ込められたときに、エパfras が教会の知らせを持って訪ねてきたのです。そこで、
コロサイ教会の信徒たちが信仰の中でよく育てていることを伝え、それと同時に、教会の中にある問題もパ
ウロに伝えました。どこの教会も同じでしょうが、偽りの教師による偽りの教えが伝えられていたという
状況です。その中で深刻だったのが、いろいろな異端の思想がコロサイ教会の中に入ってきていたという
ことです。それゆえ、そこに対する手紙を書いて、ティキコを通して伝えたのでした。

<異端の思想に対するパウロの警告>

どんな問題だったのか、それが 2 章 に書いてあります。2 章 8 節を読みましょう。

08 あの空しいだましごとの哲学によって、だれかの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。それは
人間の言い伝えによるもの、この世のもろもろの霊によるものであり、キリストによるものではありません。

コロサイ教会の中に「人間の言い伝えによるもの」が入って来ていたのでした。一言で言えば、人間中心主義
(人本主義) ですが、福音を受けて確信する、その前の状態に戻ってしまったということです。

その次に 16 節で言っていることが、ユダヤ教を背景にした律法主義があることを語っています。

16 こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは祭りや新月や安息日のことで、だれかがあな
たがたを批判することがあってはなりません。

マタイの福音書でも、イエス様が手を洗わずに食事をされたので、パリサイ人たちが来て、なぜあなたはその長老たち伝統を守らず、手を洗わずに食事をするのかと問い詰めました。そのとき、食べ物や飲み物、そして祭りや新月や安息日を守ること、つまり、ユダヤ教の律法を守ることに對して、とても強調していたことがわかります。このようなことについて、パウロは20節にこのように書いています。

20 もしあなたがたがキリストとともに死んで、この世のもろもろの靈から離れたのなら、どうして、まだこの世に生きているかのように、

キリストともにあなたがたは、死にました。この世の幼稚な教え（新改訳2017では「この世のもろもろの靈」）に縛られていてはならないと言いました。

ローマ8章に書いてあるように、いのちの御靈の律法に支配されているのに、なぜ、まだ罪と死の律法の下にいる者のように生きているのかと言っているのです。

もう一つが、宗教的な熱心による神秘的な体験に気をつけよということです。神秘主義、異端思想の一つです。2章18節です。

18 自己卑下や御使い礼拝を喜んでいる者が、あなたがたを断罪することがあつてはなりません。彼らは自分が見た幻に抛り頼み、肉の思いによつていたずらに思い上がつて、

コロサイ教会の中にも、靈知主義（グノーシス主義）という異端が入つて来ていました。肉はすべて汚れていて、靈だけが聖なるもので、きよいということです。また、禁欲主義の異端も入つて来ていました。禁欲主義的な行動を熱心なことにすること、たとえば、自分の体を痛めつけるとか、自分のその欲望の代わりに痛みつけるとか、何か断食をするとか、そういうことをすれば、神秘的な体験をすと言いました。それが、結局どこまで至るかという、神様に直接仕える御使いにまで至ることができると思つていたのです。18節には、「御使い礼拝」とありますが、その内容は、神様に対する御使いの礼拝をまねしていたということです。このような神秘的な体験を強調する者たちによつて、教会にいろいろな問題があつたのです。このような姿は、こんにちの教会の中でも、信徒の中にも、よく見ることがあります。

皆さんにもお聞きしたいと思つています。

御座の力、御座のミッション、御座のタラント、知つていますか。私もそのようなことを経験したい、味わいたいと思つてはいないでしょうか。なぜ、私には、御座の力のようなものが現れないのだろう。いったい、御座のミッションとは、何をしなければならぬのか。混乱するでしょう。レムナントもそうでしょう。それは、他のことではありません。いま、神様がともにおられる中で、皆さんが息をして生きているということ、それ自体が神様の力、御座の力です。いま、皆さんに与えられたこと、していること、それが御座のミッションであり、御座のタラントです。ですから、皆さんは、遠いところからその体験や経験をしないといけなかつたと思つてではなく、皆さんの身近にあるということをお忘れなくしてください。皆さんが本当にイエ

ス・キリストを主人として、キリストとして、告白して受け入れているならば、皆さんのいまのすべての生活が、御座の祝福と力が24ともにあるということです。

そのように、神様に召されて、各自に任された働きに用いられた人々が、エパfrasとティキコでした。その他のレムナント7人も同じことです。すべてのことはイエス・キリストが現れるために、神様が各自に役割を与え、用いてくださるのです。

<福音の当然性、必然性、絶対性の内容を伝えたパウロ>

このように、いろいろな偽りの教えや異端思想がコロサイ教会に入ってきたので、福音が弱くなるしかなかったのです。そこに対して、パウロは1章からあいさつとともに、福音の当然性、必然性、絶対性の内容を続けて書いています。

コロサイ 1:5-6

05 それらは、あなたがたのために天に蓄えられている望みに基づくもので、あなたがたはこの望みのことを、あなたがたに届いた福音の真理の**ことば**によって聞きました。

06 この福音は、あなたがたが神の恵みを聞いて本当に理解したとき以来、世界中で起こっているように、あなたがたの間でも**実を結び成長**しています。

23 ただし、あなたがたは**信仰に土台を据え、堅く立ち、聞いている福音の望みから外れることなく**、信仰にとどまらなければなりません。**この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられており**、私パウロはそれに仕える者となりました。

1章5節から、エパfrasを通してあなたがたに伝えていたのは、「福音の真理の**ことば**」だと言い、その福音によって、あなたがたが「**実を結び、成長**している」ところだと6節で言っています。それゆえ、あなたがたは、信仰に土台を据え、揺れてはならないと強調しながら、それと同時に、あなたがたに伝えた「福音は、いま天の下のすべての造られたものに**宣べ伝えられている**」と言っています。世界福音化の契約は、神様が成し遂げられているのです。今も、神様の選ばれた民を通して、その働きをなさっています。そこにパウロは「私はそれに仕える者となりました」と言っています。

14 この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち**罪の赦し**を得ています。

15 御子は、見えない**神のかたち**であり、**すべての造られたもの**より先に生まれた方です。

16 なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ**権威**であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、**御子のために造られました**。

18 **また、御子はそのからだである教会のかしら**です。御子は初めであり、死者の中から**最初に**生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて**第一の者**となられました。

20 その**十字架の血**によって**平和をもたらし**、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、地にあるものも天にあるものも、御子によって**和解**させることを良しとしてくださいました。

22 今は、神が御子の肉のからだにおいて、**その死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました**。あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせるためです。

それから、14節からは、キリストは私たちの罪を贖い、赦してください方だと言います。福音の核心イエス・キリスト、その方が私たちが赦してくださいました。そのイエス・キリストは見えない神のかたちです。16節には、すべての被造物が御子にあって造られた、つまり、イエス様は創造主であると言われていました。また、18節には、「御子はそのからだである教会のかしら」だと言われていました。20～22節では、「その十字架の血で平和をもたらし」「その死によって、ご自分と和解させてくださった」神様と敵であり死んでいた私たちが和解させてくださったと書いてあります。すべてが恵みです。

ここに私たちがすることが、なにがあるでしょうか。イエス・キリストによって、すべてのことが成されたのです。

2章 2-3節です

02 私^{わたし}が苦闘^{くとう}しているのは、この人^{ひと}たちが愛^{あい}のうちに結び合わされて心^{こころ}に励まし^{はげ}を受け、さらに、理解^{りかい}することで豊かな全き確信^{かくしん}に達し、神^{かみ}の奥義^{おくぎ}であるキリストを知るようになるためです。

03 このキリストのうちに、知恵^{ちえ}と知識^{ちしき}の宝^{たから}がすべて隠^{かく}されています。

ここには、「神^{かみ}様の奥義^{おくぎ}」とあります。「このキリストのうちに、知恵^{ちえ}と知識^{ちしき}の宝^{たから}がすべて隠^{かく}されています」「神^{かみ}様の奥義^{おくぎ}」とありますが、「秘密^{ひみつ}」というよりは「神秘^{しんぴ}」に近い意味です。ギリシャ語の原語では、「 $\mu\sigma\tau\eta\rho\iota\omicron\upsilon\mu\sigma\tau\epsilon\iota\rho\omega$ 」という単語^{たんご}ですが、英語^{えいご}ではミステリーです。秘密^{ひみつ}と神秘^{しんぴ}の差^さは为什么呢。私^{わたし}たちは、「これは秘密^{ひみつ}だからね、他の人^{ほか}には知らせてはだめだよ」と言って横^{よこ}の人^{ひと}に話^{はな}しますが、一回^{いっかい}でも伝えたら、それが伝わった時^{つた}点^{てん}で秘密^{ひみつ}ではなくなります。秘密^{ひみつ}というのは、だれも知られてはいけないものですから。その聞いた人^きがまた違^{ちが}う人^{ひと}に「他の人^{ほか}には知らせてはだめだよ」と言って伝え、また、次の人^{つぎ}が伝えていきます。しかし、神秘^{しんぴ}、ミステリーは何^{なん}でしょうか。明らか^{あき}かに知^しっていたにもかかわらず、もう一度開^いけてみたら、また新^{あたら}しい。また聞^きいたらまた新^{あたら}しく感じる、それがミステリーだということです。神^{かみ}様の奥義^{おくぎ}、それは、私^{わたし}たちが知ることはできません。キリストに満^みたされれば満^みたされるほど、私^{わたし}たちは、もっとあふれる恵^{めぐ}みの中^{なか}に入れてもらうのです。

この奥義^{おくぎ}を知^しることができたのが、どれほど幸^{さいわ}いなことかマタイの福音書^{ふくいんしょ}で、イエス様^{さま}が弟子^{でし}たちに言^いわれました。

マタイ 13章 16節から 17節

16 しかし、あなたがたの目^めは見ているから幸^{さいわ}いです。また、あなたがたの耳^{みみ}は聞^きいているから幸^{さいわ}いです。

17 まことに、あなたがたに言^いいます。多くの預言者^{よげんしゃ}や義人^{ぎじん}たちが、あなたがたが見^みているものを見^みたいと切^{せつ}に願^{ねが}ったのに、見^みられず、あなたがたが聞^きいていることを聞^ききたいと切^{せつ}に願^{ねが}ったのに、聞^きけませんでした。

イエスがキリストだという事^じ実^{じつ}を知^しったことは、私^{わたし}たちには大きな祝^{しゆく}福^{ふく}です。多くの預言者^{よげんしゃ}も義人^{ぎじん}たちも、それを見^みたいと切^{せつ}に願^{ねが}ったのに、見^みることができず、聞^きくこともできなかつたのです。しかし、弟子^{でし}たちは、いま目^めの前にイエス・キリストを見^みて、その方^{かた}を神^{かみ}の御子^{みこ}キリストとして告^こ白^{はく}したでしょう。

皆さんはどうでしょうか。2000年前のイエス様を見たことないでしょう。しかし、私たちはその方をキリストとして私の主人として信じて、告白しました。すべての罪を赦してくださった方。神様に会う道である方、サタンのわざを打ち破った方として告白しました。その奥義を知らせてくださったことが、私たちに大きな恵みで、祝福なのです。

このことを弟子たちに話されたのは、イエス様が4つの種のたとえを語られた後でした。道端に落ちた種、岩地に落ちた種、茨の間に落ちた種、良い地に落ちた種のたとえです。このたとえを話されたのは、私たちに、道端、岩地、茨の畑の、石ころをのけて、よく耕して、自分の畑を耕しなさいとか、茨をのけなさいとか、良い地にしなさいと言っているのではありません。道端、岩地、茨であった私たちを、神様がすべて良い畑として作ってくださるといことです。私たちは、私たち自身で心の石をのけることはできません。

それゆえ、エゼキエル 36:26-27 を見ると、「あなたがたのからだから、石の心を取り除き、あなたがたに肉（柔らかい）心を与える」と言われています。

エゼキエル 36:26-27

26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

27 わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。

私自身では変えることができない、石の心を神様が変えてくださり、神様の霊を与えてくださると言われています。これが、イエス様が受肉されたこと、そして、イエス様が十字架にかけられて復活されて、昇天され、聖霊が来られた事件です。ここに「肉の心を与える」と言われていますが、「柔らかい心」を与えるといことです。それは、人となって来られたイエス・キリストのことを言っています。その内容が、コロサイ 2章にも書いてあります

コロサイ 2:9-10

09 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。

10 あなたがたは、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。

キリストは肉を持って来られた神様です。ここに「形をとって」とありますが、原語では「肉体で」「肉をもって来られた」といことです。

神様が私たちの中に直接入ってこられ、宿っておられるのです。そのように来られた方が、イエス・キリストだといことです。

私たちが神の子どもとして、神の民として、この世で生きる間、私たちに必要なことは何でしょうか。イエス・キリストをもっと知っていくこと、そこに力を注ぐべきです。イエス様を与えてくださったときに、私たちにすべてを与えてくださったのです。これ以上、必要なことはありません。福音は福音で完全です。

福音プラスアルファは必要ではないのです。

それゆえ、パウロはコロサイ教会の信徒たちのために、このように祈ると言っています。私たちは、私たち自らが刻印を変えようとする必要かもしれません。しかし、その刻印を変えるための祈りが、どのような祈りであるのか、それが重要だと思います。パウロの祈りを見てみましょう。

コロサイ 1:9-10

09 こういうわけで、私たちもそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたが、あらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころについての知識に満たされますように。

10 また、主にふさわしく歩み、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる良いわざのうちに実を結び、神を知ることに成長しますように。

いろいろな偽りの教え、異端の思想が入って来ていたコロサイ教会の信徒に、それゆえよけいに、神様のみこころを知ること、もっと力を注がなければならないと言ひ、そのように祈っていると申しました。10節の最後にも「神を知ることに成長しますように」と書いています。

こんにちも、いろいろ多くの異端と偽りの教えが伝えられています。少し前に、アメリカでこういう事件があったでしょう。「キリストの兵士たち」という異端のグループがあります。その団体に加わろうとして来た女性が餓死させました。韓国からアメリカに渡って行った韓国の女性でした。車のトランクで見つかったその遺体は、31キロしかなかったそうです。餓死させただけでなく、暴力のあともあったそうです。まだこのような異端が騒いでいる、そのような世の中です。そういうことが問題ではなく、いまメッセージでも続けて語られている3団体は、いろいろなことで、この世の中を誘惑し、暗闇に向かうようにしています。そのような時代に、皆さんが何か特別な体験や力や能力を得ようとするものではありません。パウロの祈りのように、「神のみこころについての知識に満たされるように」「神を知ることに成長するように」祈ってください。

ヤコブ 1:5

あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。

知恵が欠けていると思うなら、「神に求めなさい。そうすれば与えられます」とヤコブ 1:5 で言われています。

ティキコは、このように福音が伝達される場所に用いられた1人の人でした。皆さんが、そのようにティキコのような役割の働きをするかもしれません。またパウロのような役割に用いられるかもしれません。どんな役割でも、皆さんがどんな状態でも、神様をもっと知ること、力を注いでください。以上です。